

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(756)8410
担当部課名	保健福祉部	陽光園	総務	班
事務事業名	陽光園職場研修費（家族支援研修）		事業コード	11320

1 総合計画における位置づけ

政策名	1 第 1 章	安心して生活できる福祉社会を作ります	事業開始年度
基本施策名	第 3 節	障害者の自立支援と社会参加	5 年度
施策名	第 2 施策	療育体制の整備と保育・療育の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

陽光園研修委員会運営要領（平成9年4月1日）現在見直し中

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象（誰、何）	
職員研修室が実施する研修や保健福祉部が実施する研修とは別に、陽光園職員のより専門的な資質の向上を図るための研修として独自に行うもので、効果的研修運営を推進するために陽光園研修委員会を設置し、全体的な調整・検討を行い、必要な研修について企画実施する。		陽光園職員	
		対象数	64人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 陽光園研修委員会の開催 10回（計7時間45分） うち、『家族支援研修』の打合せ 1時間 ・ 職場研修 28回（参加者延べ429人） うち、『家族支援研修』 1回（参加者64人） 「障害を抱える家族への支援」 講師：横浜国立大学助教授 堀之内 高久氏 精神医学・家族療法の見地から、障害を抱える家族への対応の基本的な姿勢と方法について、理解を深める。 ・ 決算額 719,930円 うち、『家族支援研修』 24,000円（講師謝礼） 		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	なし
計画年次	年度～ 年度		

4 評価指標

指標名	満足度		
指標式	A評価（5点）+ B評価（3点）+ C評価（1点） 5点×5項目 = 25点満点 評価の合計点 / 25 × 100		
指標設定の意図	カリキュラム、講師選定、コース、実施時期、対象者選定の5項目の評価を点数化することで成果を表す。		

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度（評価対象年度）		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	100.0	100.0	a 100.0	b 100.0	100.0	
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算（予算）額	30	50	24	30	60
	人員・時間数	11.0時間	22.0時間	11.5時間	11.0時間	22.0時間
	人件費	46	92	49	46	92
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	76	142	73	76	152
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	
$\frac{a}{b} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
理由 :	平成13年度の職場基本研修の基調は、業務に共通する人間関係学を多角的に学ぶことであり、本研修では対象者との対話の技法を中心に実践場面に直結した内容を学ぶことができ、職員のニーズに応える形で実施できた。	

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A : 適応している	理由 : 講師は、福祉領域におけるカウンセリング技法について、子どもから高齢者まで具体的な実践教育を専門に、県内外の研修・勉強会に常連として活躍されており、陽光園での日々の療育を見直す機会となった。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 B ▼	A : 妥当である	理由 : 講師謝礼については経済性・効率性は高いと言える。陽光園研修委員会会議における委員6人の人件費については、会議の効率的進行による時間短縮の検討が必要である。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由 : 現場に携わる職員のニーズに応える研修であり、県又は民間が企画実施することは困難である。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由 : カウンセリング技法を学ぶことで職員の資質向上が図られ、間接的ではあるが利用者サービスの充実につながっている。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由 : 職員の資質向上、意識改革を促し、療育体制の整備・充実に貢献している。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> <p>より効果的な研修を実施するため、今後も研修委員会にて検討を重ねていく。</p>
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> <p>講師謝礼をこれ以上削減することは困難であるが、研修会会議の人件費については見直しの余地が若干ある。</p>

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	神奈川県立総合療育相談センター ・子育て・障害児(者)支援講座「選択の時代を迎えた自立と家族支援」 社会変化に伴い、障害児者を取り巻く環境はどう変化し、医療・福祉・教育においてどのような家族支援が必要となるかについての講義。 この研修は、児童・障害福祉従事者、主任児童委員及び一般県民を対象とした総論的な内容で、陽光園家族支援研修は福祉分野についてさらに掘り下げた、より専門的・実践的内容であるため、独自に実施していく必要がある。	
	今後の進め方			
	<input checked="" type="checkbox"/>			継続
	<input type="checkbox"/>			見直し
	<input type="checkbox"/>			廃止
<input type="checkbox"/>	完了	説明	平成13年度までの陽光園研修委員会の取り組みの中でも、家族支援研修は職員からのニーズが最も高く、陽光園として特徴的な性格を持つ研修として力を入れてきた。その結果、研修報告でも評価は常に高く成果を上げてきたと言える。今後も陽光園研修委員会では、職員の専門的な資質の向上を目指し、運営内容等の検討を行っていく。	

8 二次評価における変更点

--